

2026年5月期 中間決算説明資料

2026年1月22日

株式会社 **サカタのタネ**



1. 2026年5月期 中間決算の概要	3～15
2. 2026年5月期 通期予想および株主還元	16～22
3. グローバルな成長に向けた取り組み	23～39
4. トピック	40～43
5. 2026年5月期 中間期 資料集	44～48

1. 2026年5月期 中間決算の概要

前期比で増収、大幅増益

	24/11月	25/11月	増減	増減率	25/7月公表 予想
売上高	42,325	47,746	+5,421	+12.8%	45,500(+2,246)
売上総利益	27,417	31,053	+3,635	+13.3%	-
売上総利益率(%)	64.8%	65.0%	-	-	-
研究開発費	5,135	5,776	+640	+12.5%	-
売上高比率(%)	12.3%	12.1%	-	-	-
その他販管費	16,609	18,381	+1,772	+10.7%	-
営業利益	5,672	6,895	+1,222	+21.6%	5,000(+1,895)
経常利益	5,650	7,753	+2,103	+37.2%	5,000(+2,753)
当期純利益	5,123	6,990	+1,867	+36.4%	4,500(+2,490)

海外子会社換算レート※1

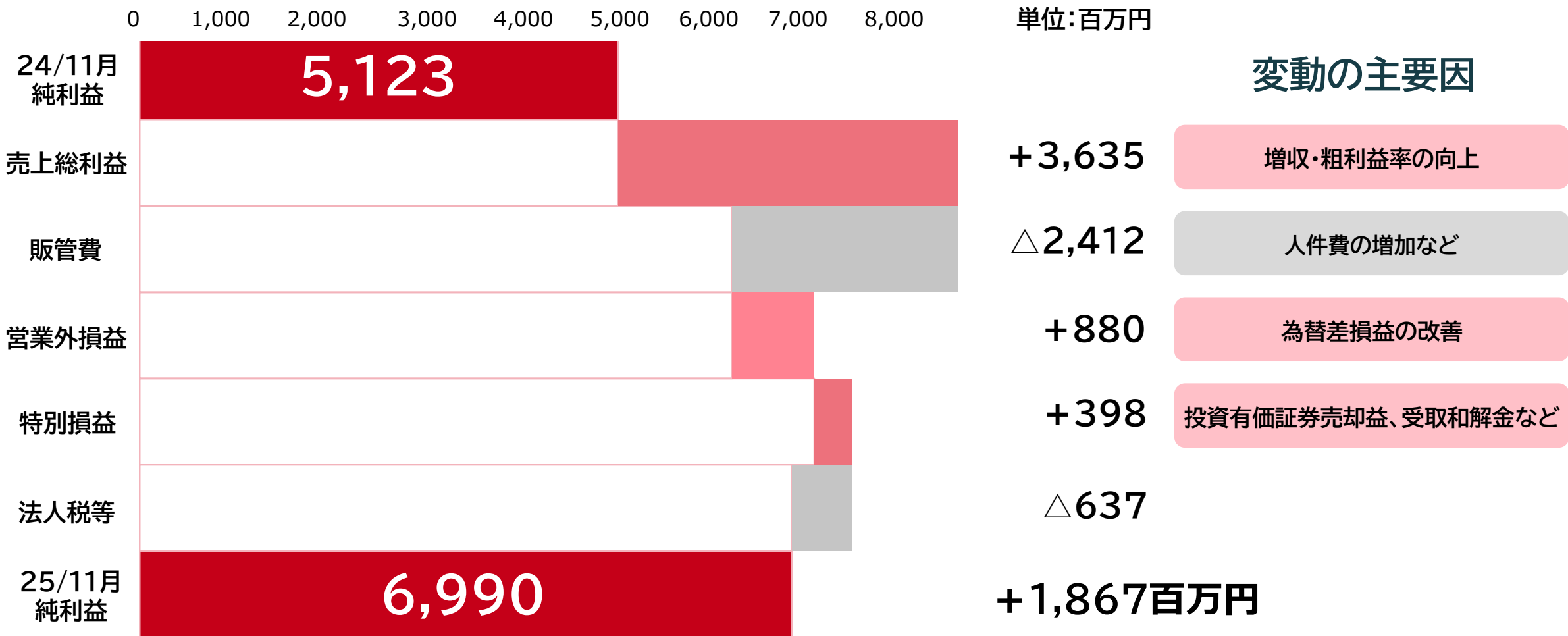
米ドルレート(円)	142.82	148.89	+6.07	為替影響※2 +1,692百万円	140.00 (+8.89)
ユーロレート(円)	159.53	174.51	+14.98		160.00(+14.51)

※1 海外子会社換算レート(9月末) ※2 売上高への為替影響(前期比)



2026年5月期 中間期 実績(純利益)

増収、粗利益率の向上などにより大幅増益





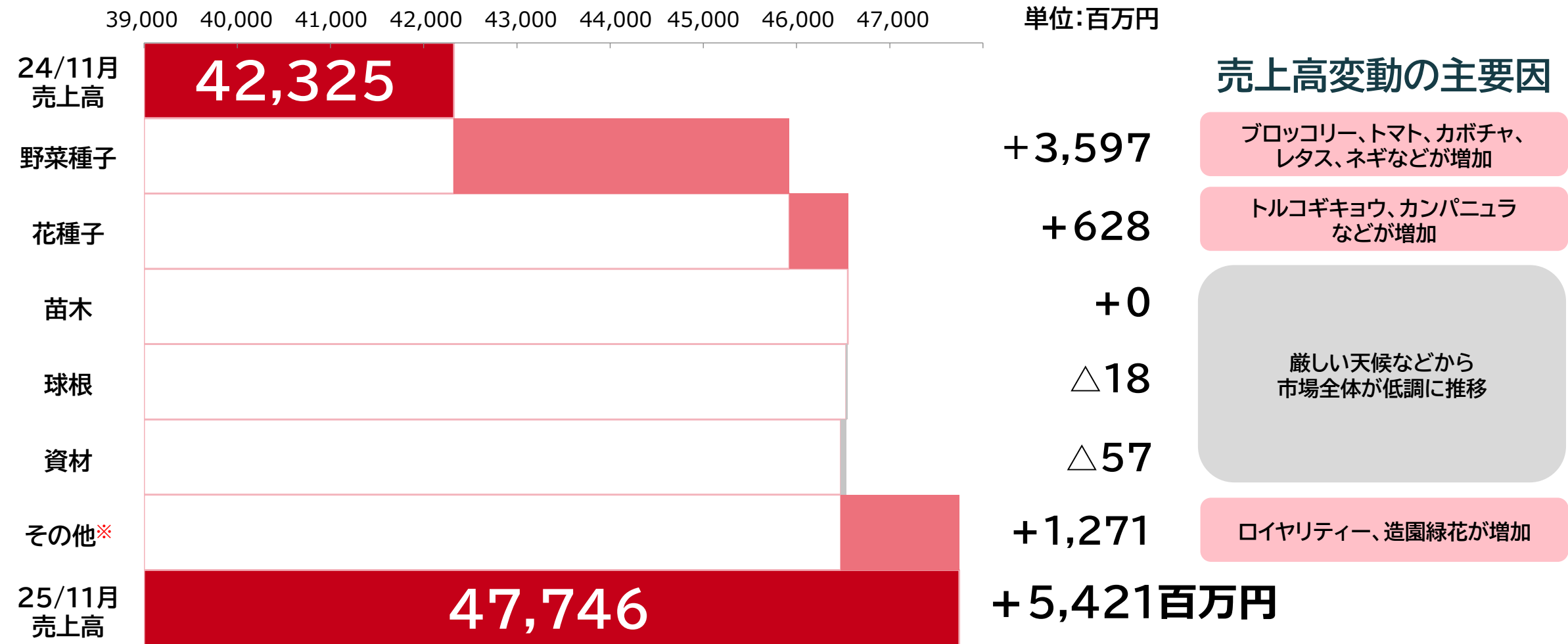
国内卸売、海外卸売は増収・増益

単位:百万円

	売上高				営業利益			
	24/11	25/11	増減	増減率	24/11	25/11	増減	増減率
国内卸売事業	6,138	6,506	+368	+6.0%	2,388	2,389	+1	+0.0%
海外卸売事業	32,364	37,552	+5,187	+16.0%	8,562	10,082	+1,520	+17.8%
小売事業	1,872	1,558	△314	△16.8%	△247	△368	△120	—
その他 (造園緑花事業等)	1,949	2,130	+180	+9.3%	117	86	△31	△26.8%
小計	42,325	47,746	+5,421	+12.8%	10,820	12,190	+1,369	+12.7%
消去	—	—	—	—	△5,147	△5,294	△146	—
連結	42,325	47,746	+5,421	+12.8%	5,672	6,895	+1,222	+21.6%



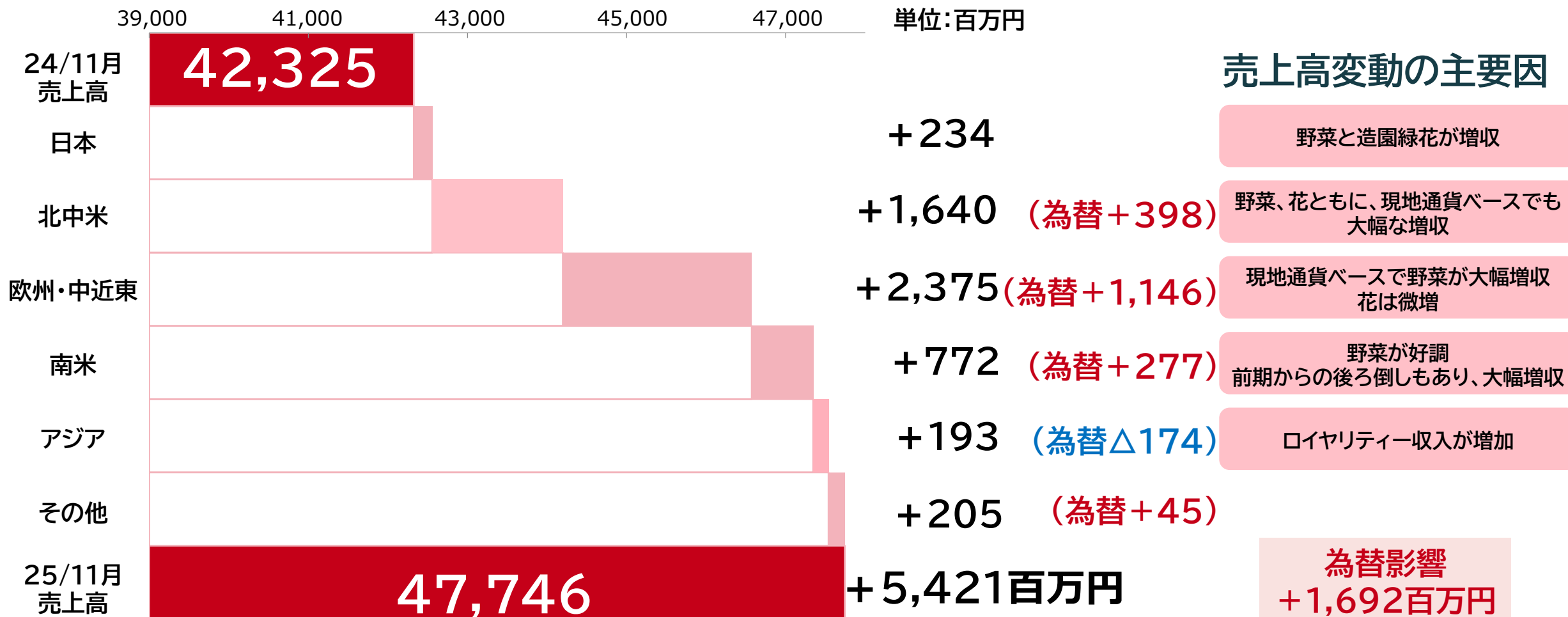
野菜種子は大幅増収、花種子・造園緑花も増収



※従来、アジアにおける値引きのマイナス額を「その他」で計上していましたが、今回から各品目に割り振りました



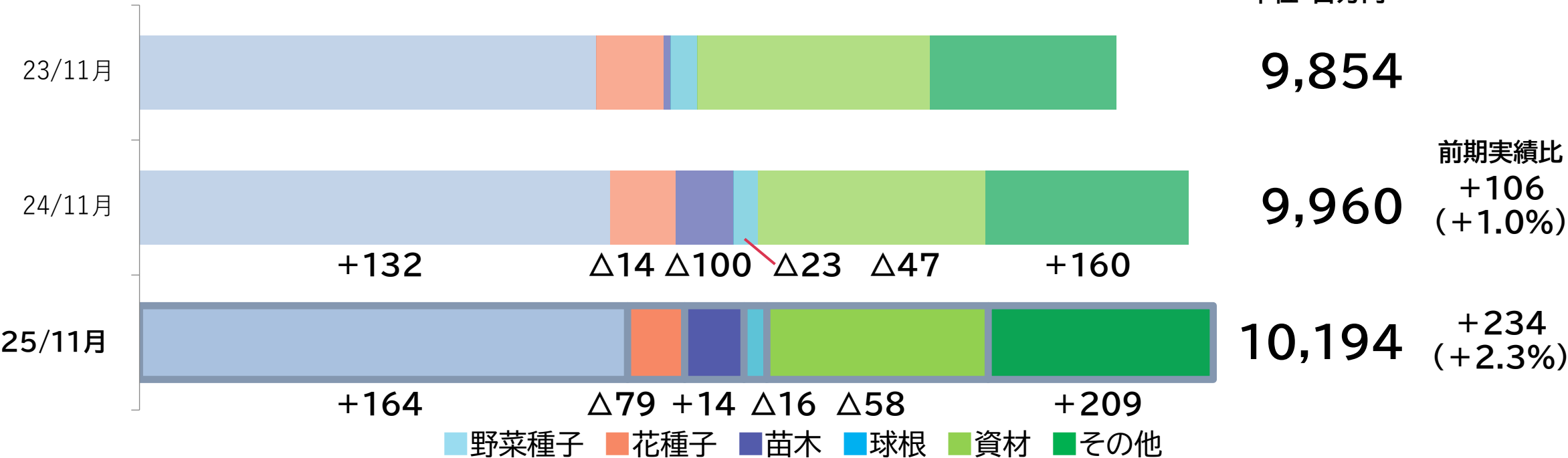
全ての地域で増収





【日本】野菜、造園緑花が増収

単位:百万円



野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ブロッコリー	+86
トマト	+78
ネギ	+20
ホウレンソウ	△17

花種子・売上高上位品目(前期実績比)	
パンジー・ビオラ	△18
ストック	△5
トルコギキョウ	△3
ヒマワリ	△7

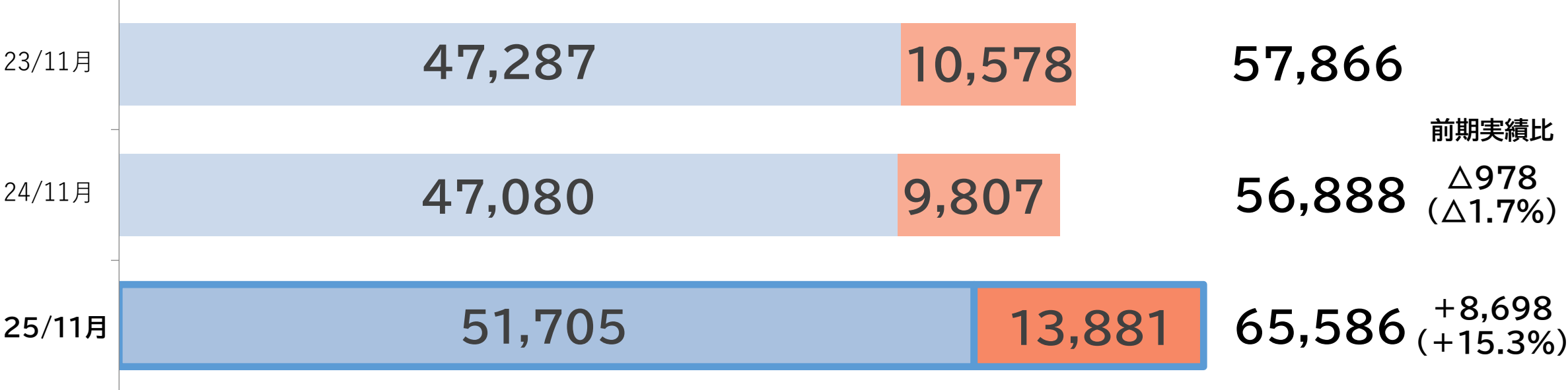


2026年5月期 中間期 地域別売上高

【北中米】野菜、花ともに増収



単位:千ドル



■ 野菜種子 ■ 花種子・その他

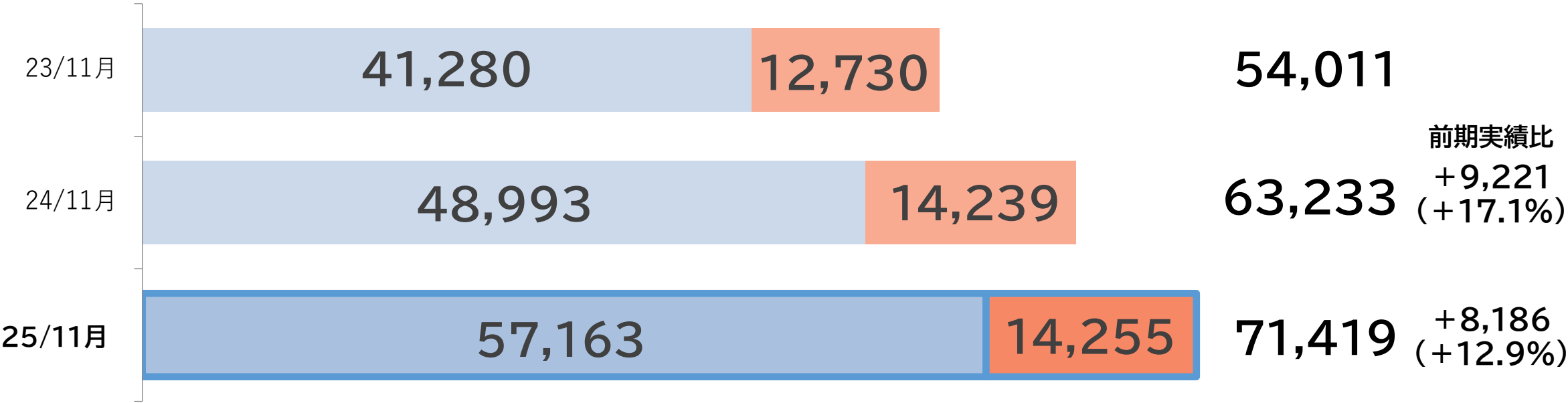
野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ブロッコリー	+1,276
トマト	+1,310
ペッパー	+756
スイカ	+544

花種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ヒマワリ	+949
トルコギキョウ	+517
カンパニュラ	+802
パンジー・ビオラ	△65



【欧州・中近東】野菜、花ともに増収

単位:千ユーロ

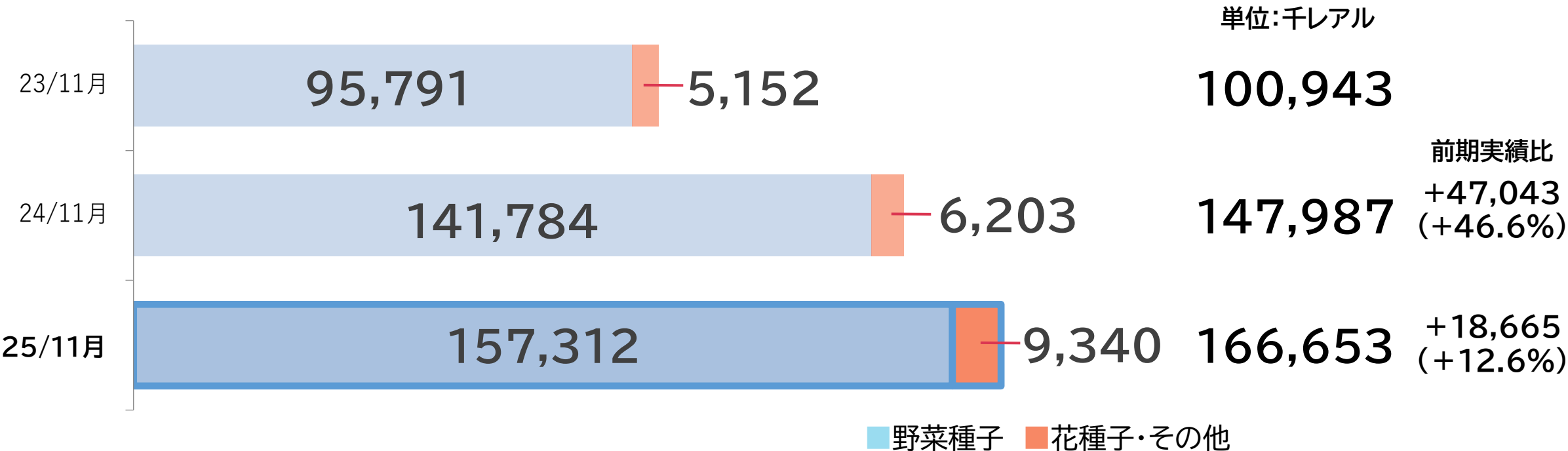


■ 野菜種子 ■ 花種子・その他

野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)		花種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ブロッコリー	+408	トルコギキョウ	+414
トマト	+4,557	ストック	+98
カボチャ・スカッシュ	+1,944	ヒマワリ	△82
カリフラワー	+299	パンジー・ビオラ	△48



【南米】野菜、花ともに増収



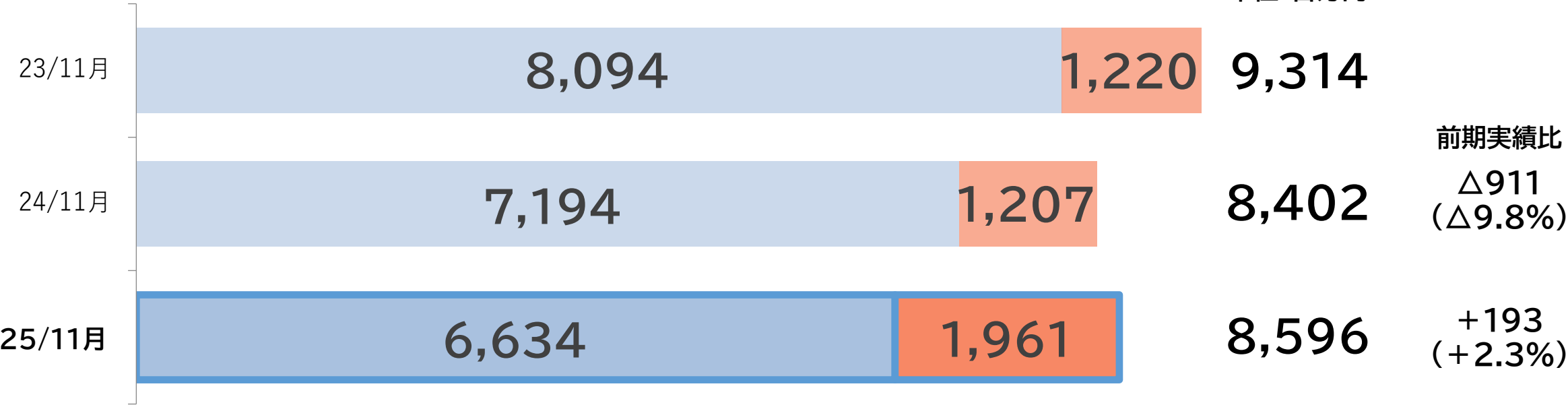
野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)	
カボチャ・スカッシュ	+9,202
ブロッコリー	+1,535
ペッパー	△3,680
トマト	+920

花種子・売上高上位品目(前期実績比)	
トルコギキョウ	+929
ヒマワリ	△1,155
キンギョソウ	+517
アスター	+356



【アジア】野菜・花が減収、ロイヤリティーが増収

単位:百万円



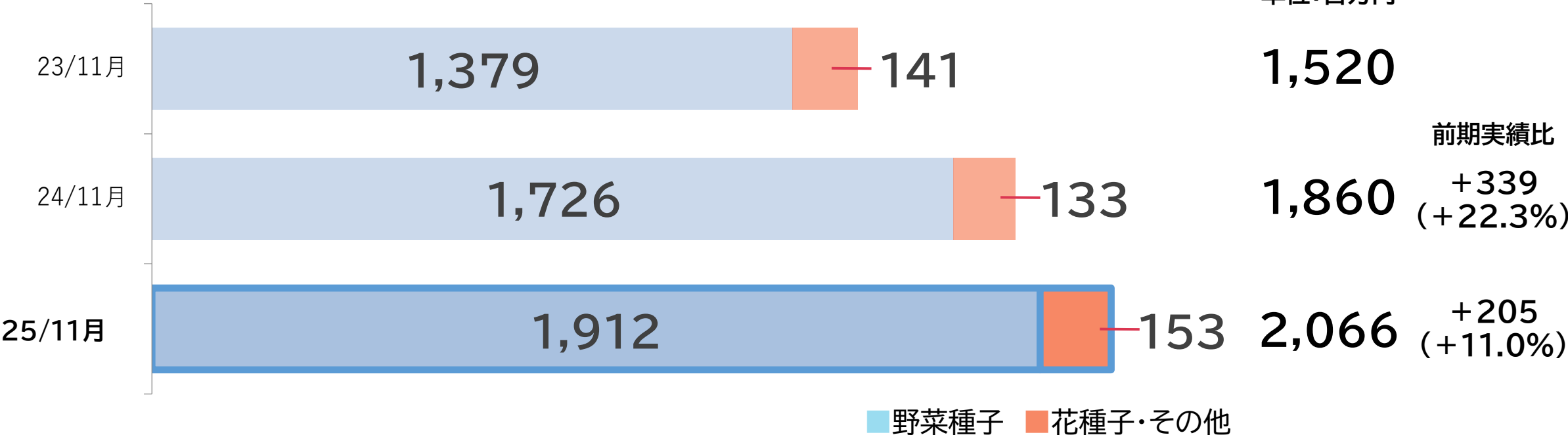
■ 野菜種子 ■ 花種子・その他

野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)		花種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ブロッコリー	△247	ヒマワリ	△22
ニンジン	△240	トルコギキョウ	+57
ネギ	+82	カンパニュラ	+25
カリフラワー	△99	プリムラ	△23



【その他(アフリカ・オセアニア)】 野菜が増収

単位:百万円



野菜種子・売上高上位品目(前期実績比)	
ブロッコリー	△7
カボチャ・スカッシュ	△35
キャベツ	+46
トマト	+40



2026年5月期 中間期 主な販管費の状況



人件費、試験研究費、減価償却費などが増加

単位:百万円
(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

	販管費計	人件費※1	旅費交通費	修繕費	業務委託費	減価償却費	試験研究費 (研究開発費※2)
2025年11月 実績	24,157	12,868	911	958	1,337	1,892	898(5,776)
2024年11月 実績	21,744	11,592	855	827	1,233	1,690	695(5,135)
前期比増減	+2,412	+1,276	+55	+130	+103	+202	+203(+640)
うち為替変動による影響額	+1,120	+516	+37	+35	+53	+82	+29(+211)
内 日本	+287	+129	△31	+49	△104	+62	+11(+236)
北中米	+824	+427	+49	+50	+61	+20	+58(+142)
欧州・中近東	+1,233	+531	+44	+49	+66	+104	+113(+159)
南米	+375	+180	△13	△23	+60	+19	△9(+70)
アジア	+61	△4	+3	+5	+26	△12	+27(+30)
その他+連結調整	△369	+12	+2	+0	△7	+8	+0(+0)

※1 人件費には、退職給付費用、役員株式給付引当金繰入額、役員退職慰労引当金繰入額が含まれております

※2 研究開発費は、研究活動に関わる経費の合計としており、人件費と減価償却費の一部が重複した数字となっております

2. 2026年5月期 通期予想および株主還元



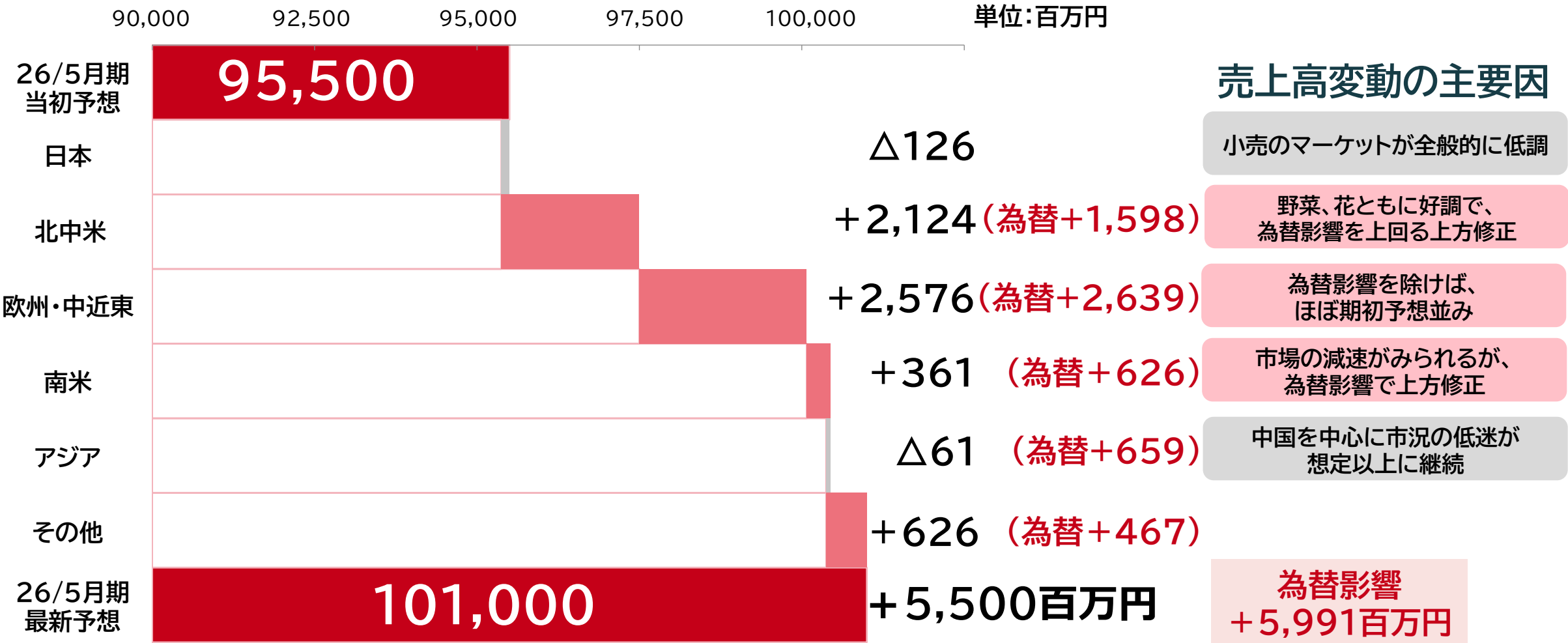
為替レートの変更し、業績予想を上方修正

単位:百万円

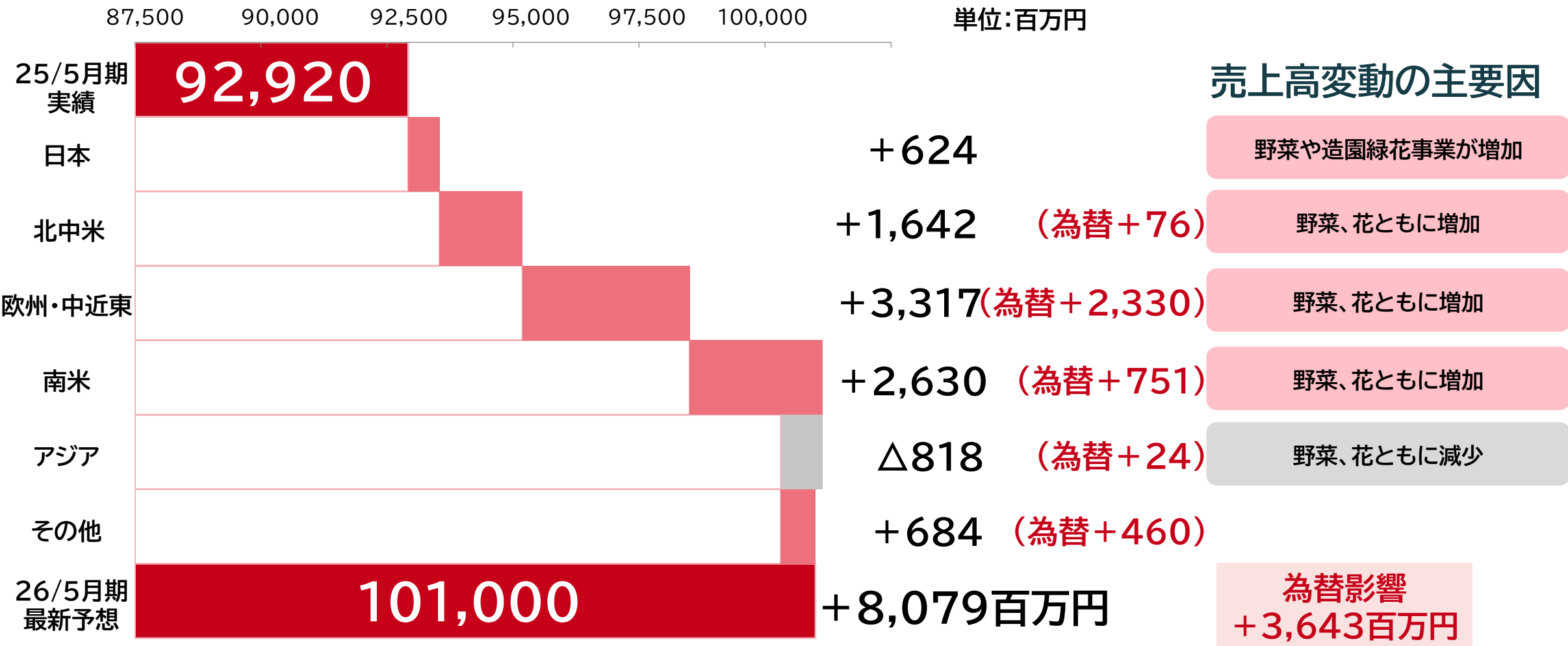
	当初予想	最新予想	増減	25/5月期実績
売上高	95,500	101,000	5,500	92,920
売上総利益	59,500	63,600	4,100	58,486
売上総利益率(%)	62.3%	63.0%	-	62.9%
研究開発費	11,443	12,100	657	10,625
売上高比率(%)	12.0%	12.0%	-	11.4%
その他販管費	37,057	39,000	1,943	35,603
営業利益	11,000	12,500	1,500	12,257
経常利益	11,000	13,000	2,000	12,311
当期純利益	9,000	10,000	1,000	9,711
海外子会社換算レート※1			為替の感応度の試算※2(百万円)	
米ドルレート(円)	140.00	150.00	+10.00	米ドル 64
ユーロレート(円)	160.00	180.00	+20.00	ユーロ 19

※1 海外子会社換算レート(3月末) ※2 1円の為替変動による今年度の営業利益への影響額試算

想定レートの見直しによる為替影響で上方修正



アジアを除いた全地域で、前期比売上増を見込む





為替要因により当初予想から増加、実質ベースでは減少

単位:百万円
(内訳は、本社および主要子会社の所在地ベース)

		当初予想比	前期実績比
2026年5月期 最新予想		51,100	51,100
2026年5月期 当初予想/2025年5月期 実績		48,500	46,228
増 減		+2,600 (為替+3,341)	+4,871 (為替+2,401)
内 訳	日本	△145 (0)	+950 (0)
	北中米	+1,058 (為替+855)	+923 (為替+41)
	欧州・中近東	+1,773 (為替+1,690)	+2,109 (為替+1,488)
	南米	+221 (為替+328)	+875 (為替+393)
	アジア	△93 (為替+149)	+154 (為替+165)
	その他+連結調整	△213 (為替+317)	△143 (為替+312)



株主還元方針：長期安定方針の下、安定的・継続的に還元を強化

配当：株主資本配当率を指標として採用し、当面、2.5%を目指す

自己株式：総還元性向も意識し、現預金水準やマーケット動向などを総合的に勘案して機動的に実施

中間配当は35円を決議、期末配当は40円を予想

①「中間配当」1株あたり35円

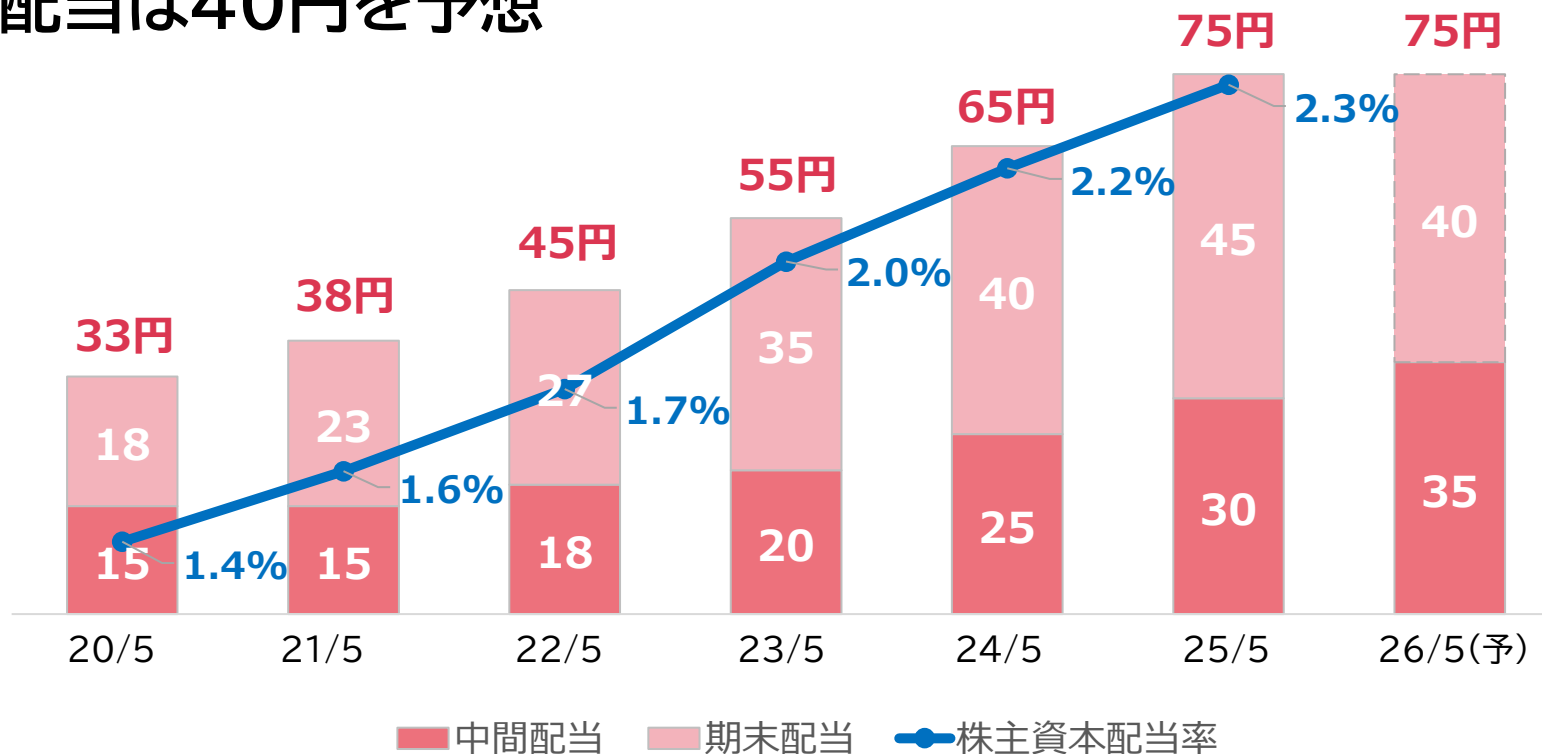
(前期比+5円)を決議

②「期末配当」1株あたり40円

(前期比△5円)を予定

いずれも従来の公表通り

年間配当額は、前期と同じ75円を予定



株主還元の充実および資本効率の向上と
経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、自己株式を取得

【 今期の取得の内容 】

- (1) 取得株式数 当社普通株式 1,000,000株
- (2) 取得価格の総額 3,285,000,000円
- (3) 取得日 2025年12月1日

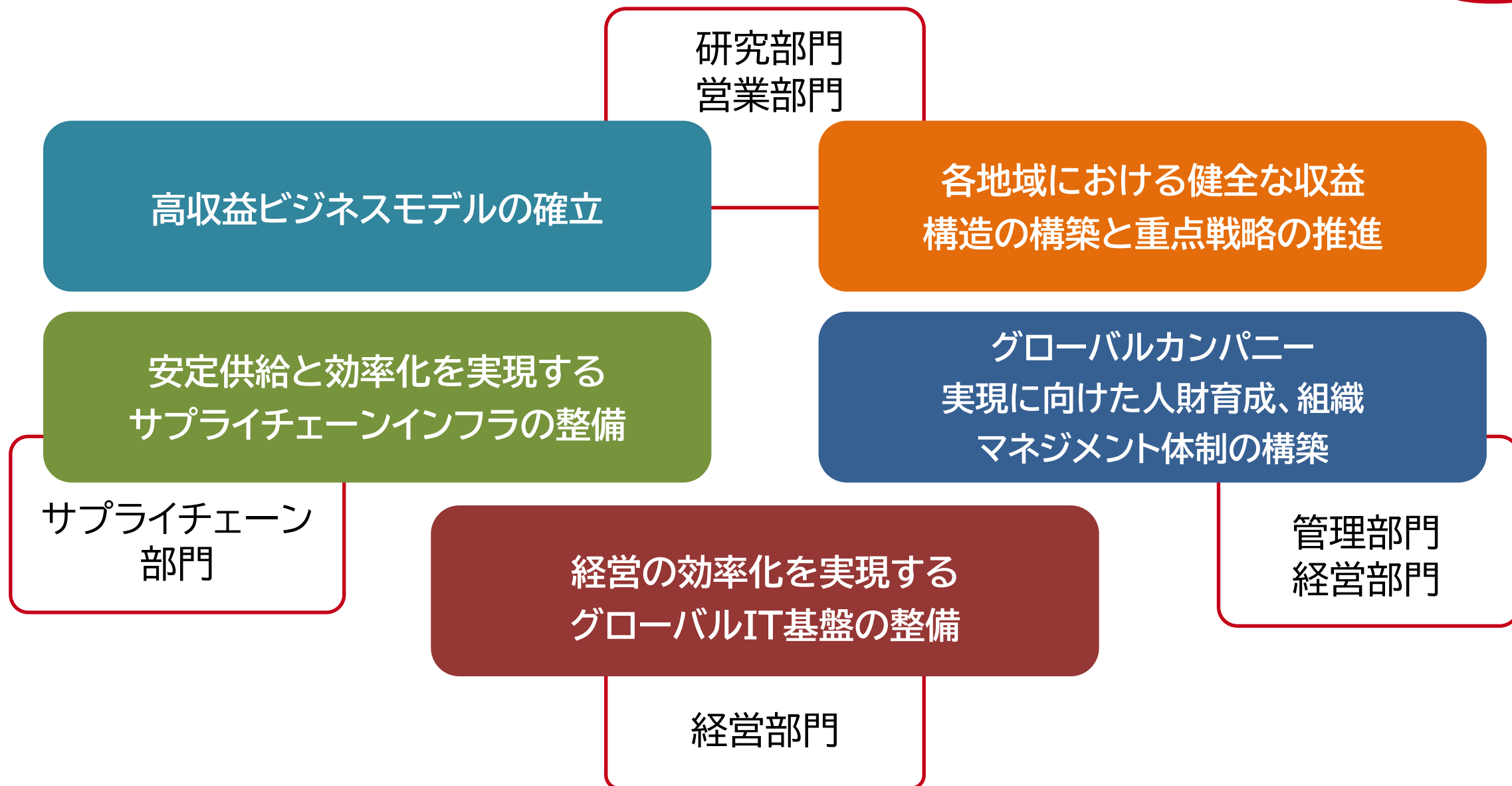
<ご参考> 直近3期の自己株式取得実績（百万円以下を四捨五入）

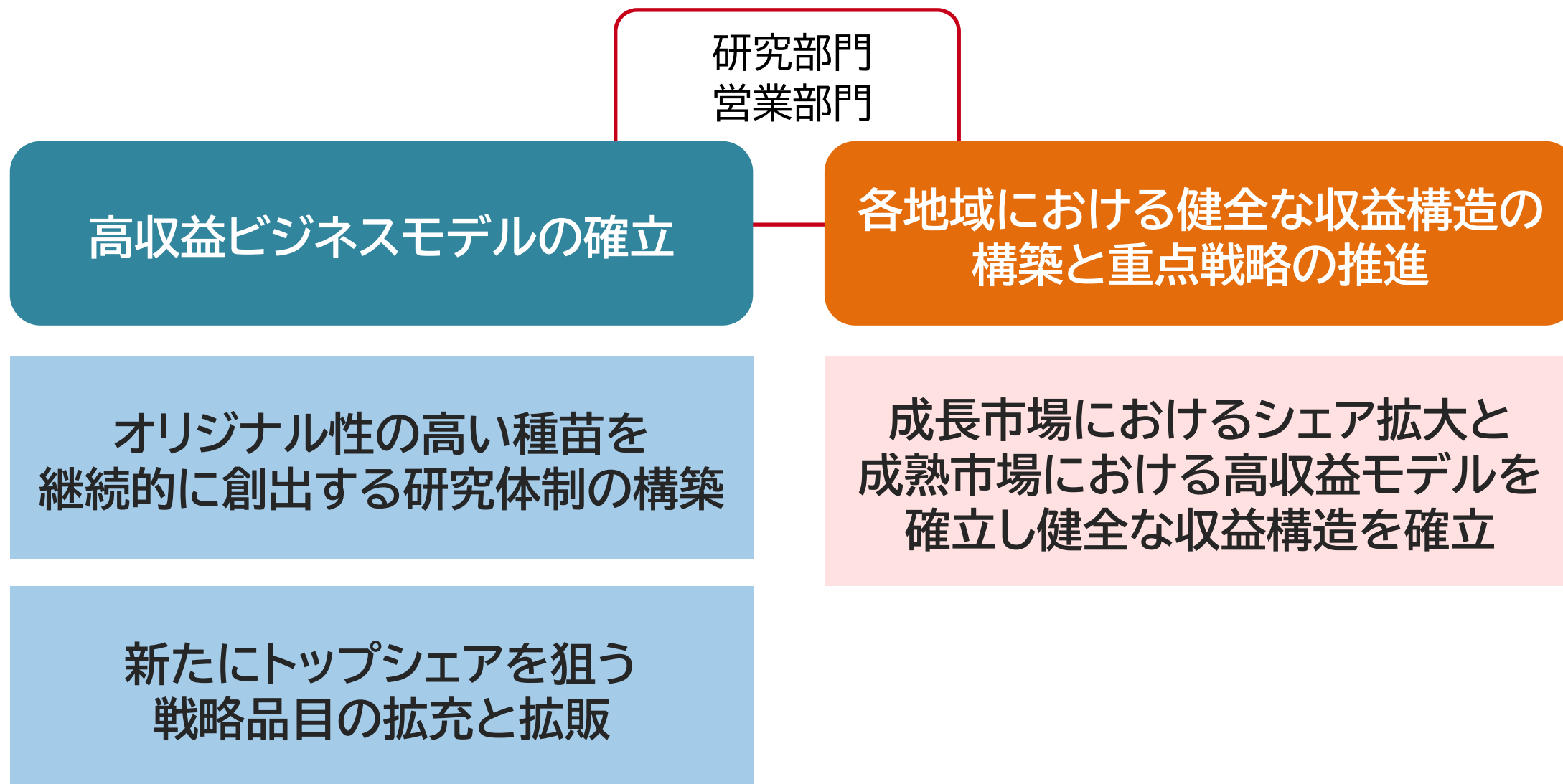
	2024年5月期	2025年5月期	2026年5月期
取得株数	500,000株	600,200株	1,000,000株
自己株式取得金額	1,825百万円	2,152百万円	3,285百万円

3. グローバルな成長に向けた取り組み

欧州・中近東・アフリカ地域の野菜種子ビジネス

1. 当社グループの成長戦略





2. EMEA地域について

多様な気候帯が存在し、農業の多様性も顕著

西・北ヨーロッパ

- ・ 温帯、冷温帯
- ・ 環境制御などハイテク農業が普及
- ・ 均一性や外観、低農薬対応の品種の需要

南欧・地中海沿岸

(イベリア半島、北アフリカ)

- ・ 温帯。1年を通じて温暖だが夏場は高温、乾燥
- ・ 簡易温室が中心
- ・ 北ヨーロッパに大量の生鮮野菜を供給する生産拠点

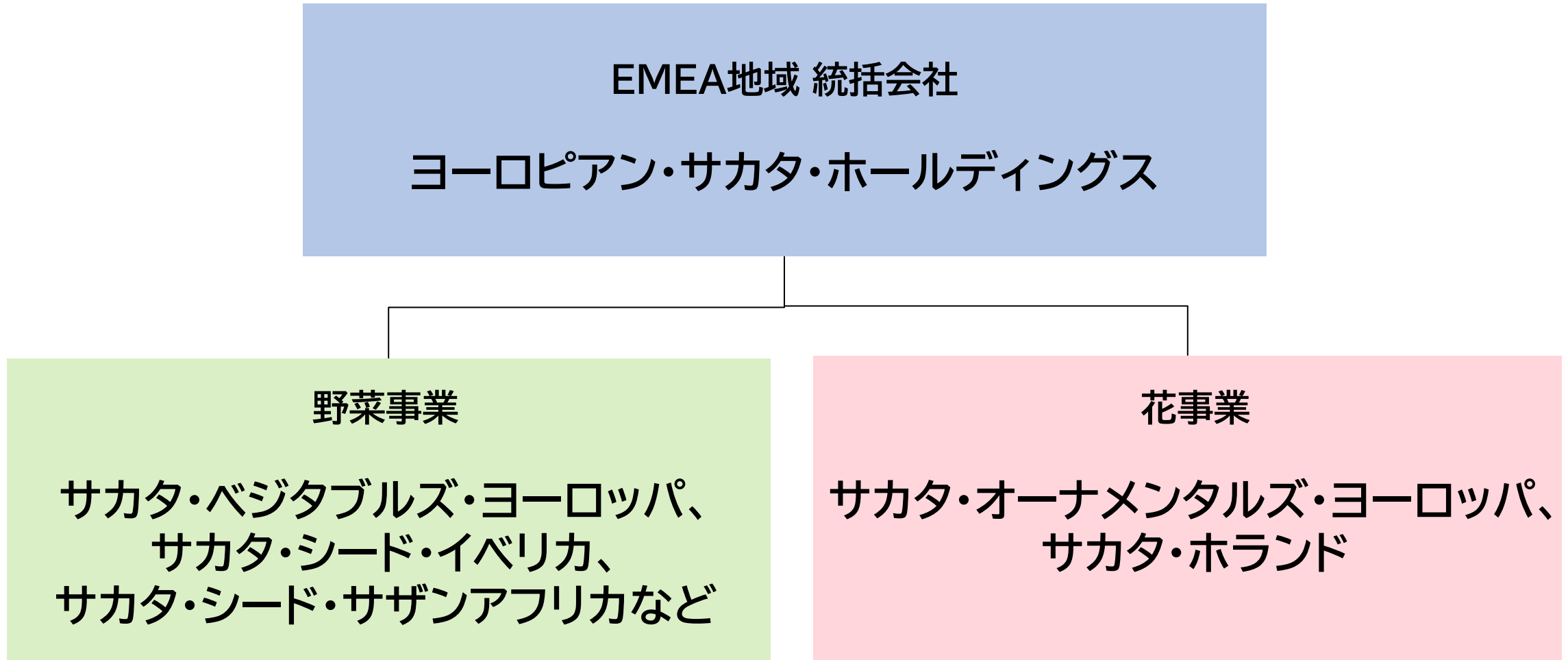


中東・アフリカ

- ・ 大部分が熱帯、亜熱帯(トロピカル気候)、多様で極めて厳しい環境
- ・ アフリカは露地栽培が中心
- ・ 高温、水不足、新病害など環境要因は厳しく、農耕技術が未熟な場合もあり、簡易に栽培できて収穫可能な品種が非常に重要
- ・ 固定種からF₁種への転換が進む

熱帯雨林	地中海性
熱帯モンスーン	西岸海洋性
砂漠(熱帯)	亜寒帯湿潤
ステップ	ツンドラ
砂漠(温帯)	高山

3. 当社におけるEMEA地域の統括体制



4. 野菜事業の展開体制

気候・文化・商習慣などで6地域に分けて統括

サカタのタネ

サカタ・ベジタブルズ・ヨーロッパ



サカタ・ユーケー



サカタ・トルコ



サカタ・シード・イベリカ



サカタ・シード・サザンアフリカ



EMEA全域での従業員数は24カ国に約700名

市場状況

西・北ヨーロッパ 成熟市場

- 野菜消費・生産ともに成熟し、栽培面積増による成長拡大は鈍化
- 環境配慮など付加価値の高い商品の需要増が市場成長をけん引

地中海沿岸 成熟～成長市場

- 欧州向け野菜の主要生産拠点として、引き続き青果の生産および輸出の増加がみられる

中東・アフリカ 成長市場

- 特にアフリカは人口増により生鮮野菜の需要が増加
- 栽培面積の拡大とF1種への転換による市場拡大

EMEA地域全体では年成長率6～7%(世界の成長率は6%程度)

競合状況

バイオメジャー系
種苗部門

オランダ系独立
種苗会社

品目やセグメントに
特化した種苗会社

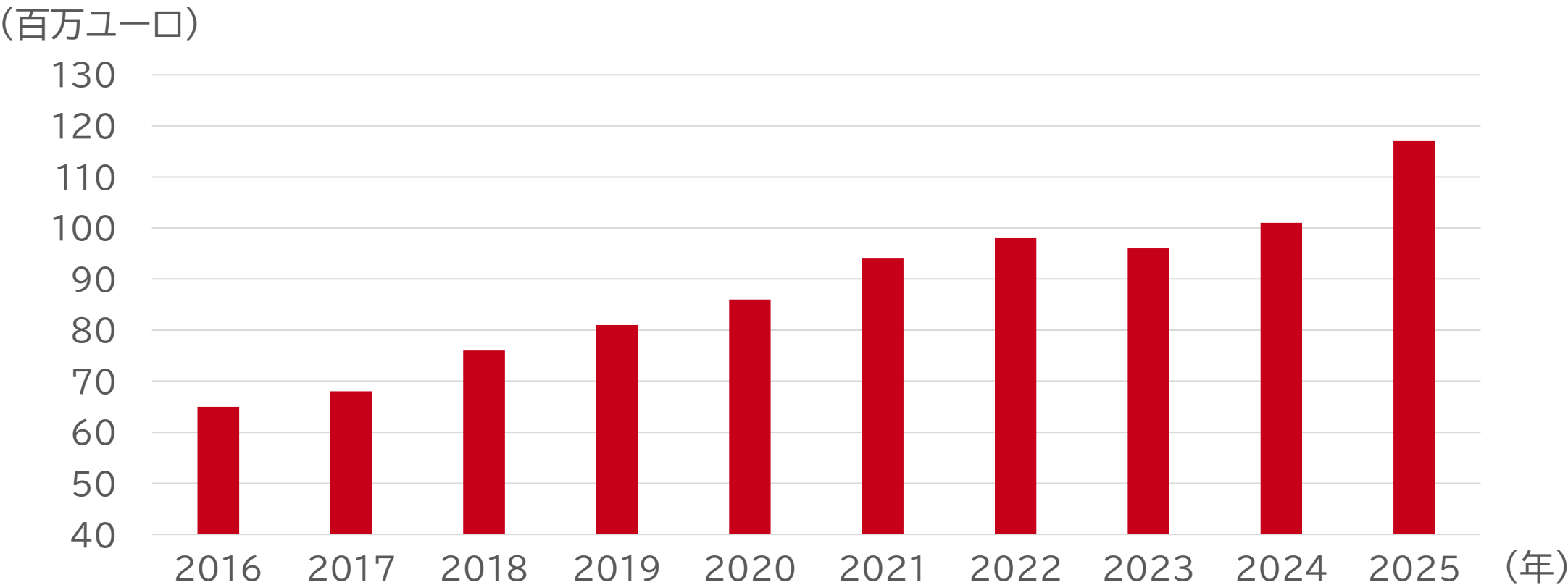
各地域に根付いた
ローカル種苗会社

「SAKATA」は日本発の種苗会社として存在感を発揮



6.これまでの売上推移

EMEA地域の野菜種子売上推移(2016－2025)



10年で約1.8倍に成長、2025年5月期は約120百万ユーロ

6.これまでの売上推移

2025年5月期 売上上位5品目と増減額（対前年比、千ユーロ）

1 ブロッコリー

2025年5月期 +2,523

2026年5月期(Q2) +408

各地で増、品質と収量性評価

2 トマト

2025年5月期 +1,309

2026年5月期(Q2) +4,557

新品種を中心に各地域の
各セグメントで好調

3 カボチャ・スカッシュ

2025年5月期 +2,909

2026年5月期(Q2) +1,944

EMEA全域、特にスペインや
南アフリカで伸び

4 キャベツ

2025年5月期 +448

2026年5月期(Q2) +396

種子の供給の安定化など

5 カリフラワー

2025年5月期 +774

2026年5月期(Q2) +299

スペインなどで底堅い需要

そのほか好調な品目

キュウリ
ペッパー
ビートなど

6.これまでの売上推移

直近10年間(2016ー2025)で増加率が高い上位5品目

1 ペッパー

主要品種 「TXECO F1」



パプリカタイプ。
収量性および
青果の高い品質
で評価

2 キュウリ



主要品種
「DORIAN F1」

収量性および
青果の高い品質
で評価

3 カボチャ・スカッシュ



主要品種
「ESTRELLA F1」

バターナッツタイプ。
高い収量性で評価

4 カリフラワー

主要品種 「WHITON F1」



育てやすさ
および青果の
高い品質で評価

5 トマト

主要品種 「SAIKO STAR F1」



ミニタイプ。
青果の高い品質
で評価

いずれも過去10年の成長率は2～4.5倍、特に果菜類が伸び

7. 成長の背景

1-1 設備投資による現地育種の強化

産地特性を見極め競争力のあるオリジナル品種を作出

①スペイン・アルメリア研究農場の設立と強化

- アルメリア地方はヨーロッパ最大の温室農業地帯
- トマト、キュウリ、パッパーなど果菜類の大産地
生産量は世界トップクラス。世界の種苗会社が進出
- 当社はアルメリア研究農場を2019年に開設

▼
パッパー、スカッシュ(ズッキーニ)の拡販

アルメリア研究農場で育種開発した品種が好評

2026年にサカタ・シード・イベリカの本社機能移転へ

研究と営業の連携を深め、さらなるビジネス拡大へ



アルメリアの温室農業地帯



アルメリア研究農場

7. 成長の背景

1-1 設備投資による現地育種の強化

産地特性を見極め競争力のあるオリジナル品種を作出

②トルコ・アンタルヤ研究農場の開設

- トルコはEMEA地域における野菜の巨大産地
- 特にトマトはEMEA最大級の生産国
- 地理的にヨーロッパ・北アフリカ・中東が交わる地域、青果の輸出も盛ん。内需も成長
- 2011年に現地法人を立ち上げ、2025年に新農場を開設
- キュウリ、トマト、ペッパーなど果菜類を中心に活動
- 高温や乾燥への耐性など、重要な特性について、観察、評価、植物体の選抜が可能



アンタルヤ研究農場



アンタルヤ研究農場開所式(2025年)

地理的、気候的な重要拠点、キュウリなど果菜類のさらなる開発を期待

7. 成長の背景

1-2 設備投資による商品上市の迅速化

生産拠点LPdC(Les Ponts-de-Cé)の開設

- ・ フランス西部 メーヌ＝エ＝ロワール県 アンジェ市
- ・ 敷地面積8.5ha、大型倉庫も併設する種子生産および物流拠点。2018年に取得
- ・ 主要品目であるアブラナ科、ビートなどの種子生産

新生産拠点の効果

- ・ 研究段階からの種子量産ノウハウの検討
- ・ 市場への供給リードタイムの短縮
- ・ 研究・生産・営業の連携強化



サカタのタネ



生産拠点「LPdC」

高品質種子の安定供給および物流の効率化が近年の成長を下支え

7.成長の背景

2 買収によるポートフォリオ拡充

現地育種・販売会社や育種プログラムなど将来性のある品目などに焦点を絞り買収

キュウリ・タマネギ：世界的な市場はあるが当社が未開拓である品目

① キュウリ

サナシード社(オランダ、2023年買収)

ロングタイプの研究開発、販売会社。ヨーロッパでマーケットシェアを持つ



ロングタイプ：
欧州を中心に世界的に利用される大型のキュウリ。サラダなど主に生食

② タマネギ

アリウム・シード社(イギリス、2025年買収)

タマネギ・シャロットの研究開発、販売会社。英国・アイルランドに特化



シャロット：
タマネギの一種。主にフランス料理で使われる定番の香味野菜

各地域に根差した機会を常に探りM&Aを実施

7. 成長の背景

3 グループ会社連携によるグローバルシナジー

遺伝資源のグローバルでの活用や品種の横展開による商品開発

①カボチャ・スカッシュ

ブラジルの拠点の品種や遺伝資源を活用

ズッキーニ「Kai F1」

- ・ ヨーロッパで高評価
- ・ 高い耐病性と収量性
- ・ そろいもよい



バターナッツ「Pluto F1」

- ・ 南東アフリカで高評価
- ・ 高い収量性
- ・ F1品種への置き換え



②トマト

インドを足掛かりにアフリカに展開

トマト「ZARA F1」

- ・ インドの拠点が育種し評価が高かったオリジナル品種
- ・ 芯どまりの露地栽培タイプ
- ・ 病気に強くよく育つ



グループ連携によるスピーディーな開発と売上への貢献

8. さらなる成長に向けて

成長市場となるアフリカに対する取り組み

第9回アフリカ開発会議(TICAD9)

2025年8月20日～22日に横浜で開催

- ・ 49カ国のアフリカ諸国、33名の首脳級を含むリーダーが参加
- ・ 同時開催の展示会「Japan Fair」には過去最大規模の196社が参加、当社も出展



TICAD9 Japan Fairでの展示

現地を重視し拠点を展開

- ・ 1950年代からビジネスを展開
- ・ 1999年に南アフリカの種苗会社 MayFord Seeds(1931年創業)を買収、2008年「サカタ・シード・サザンアフリカ」に社名変更
- ・ アフリカを4つの地域に分けて活動、各地に連絡事務所など設置



サカタ・シード・サザンアフリカ 最新品種の紹介イベント

今後の市場として非常に重要、現地主義のもと積極的な事業展開

- 現地・現場で、差別性の高い品種を、迅速かつ的確に研究開発
- グループ内の資源、ノウハウ、商材を積極的に活用
- 果菜類の増加によるポートフォリオ拡充、利益率の向上を計る



「新たな成長の柱づくり」戦略が一定の成果

将来性の高い品目、地域に積極展開、持続的な成長へ

4. トピック

ジニア「Profusion Double White Improved」世界的な花き園芸賞をダブル受賞



- 従来品種よりも大輪で、花弁数も多く、長期間開花
- 耐暑性も高く丈夫、花壇苗としての高い特性
- 2020年に同シリーズの「レッドイエローバイカラー」もダブル受賞

プロフュージョンシリーズは4回目のダブル受賞の快挙、全世界で販売へ

トピック 2027年国際園芸博覧会への取り組み

2027年3月19日に開会、社内外で機運醸成中



面積

約118.1ha
(会場約75.2haほか駐車場など)

来場者数

有料来場者数 1,000万人以上
平日平均 5.3万人/1日
休日平均 7.7万人/1日

開催期間

2027年3月19日～9月26日



©Expo 2027



公式マスコットキャラクター
トウナクトウナク

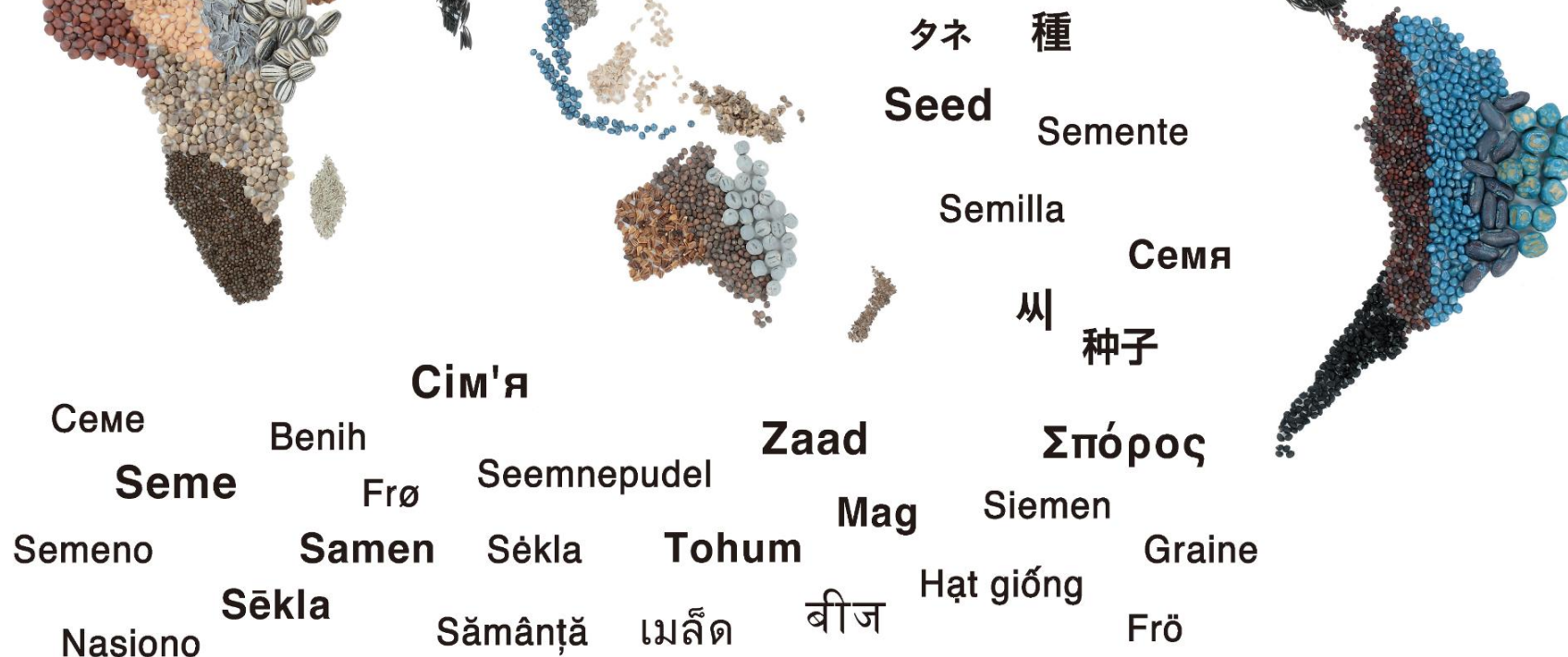


本社1階ロビーに
カウントダウン
ボードを設置

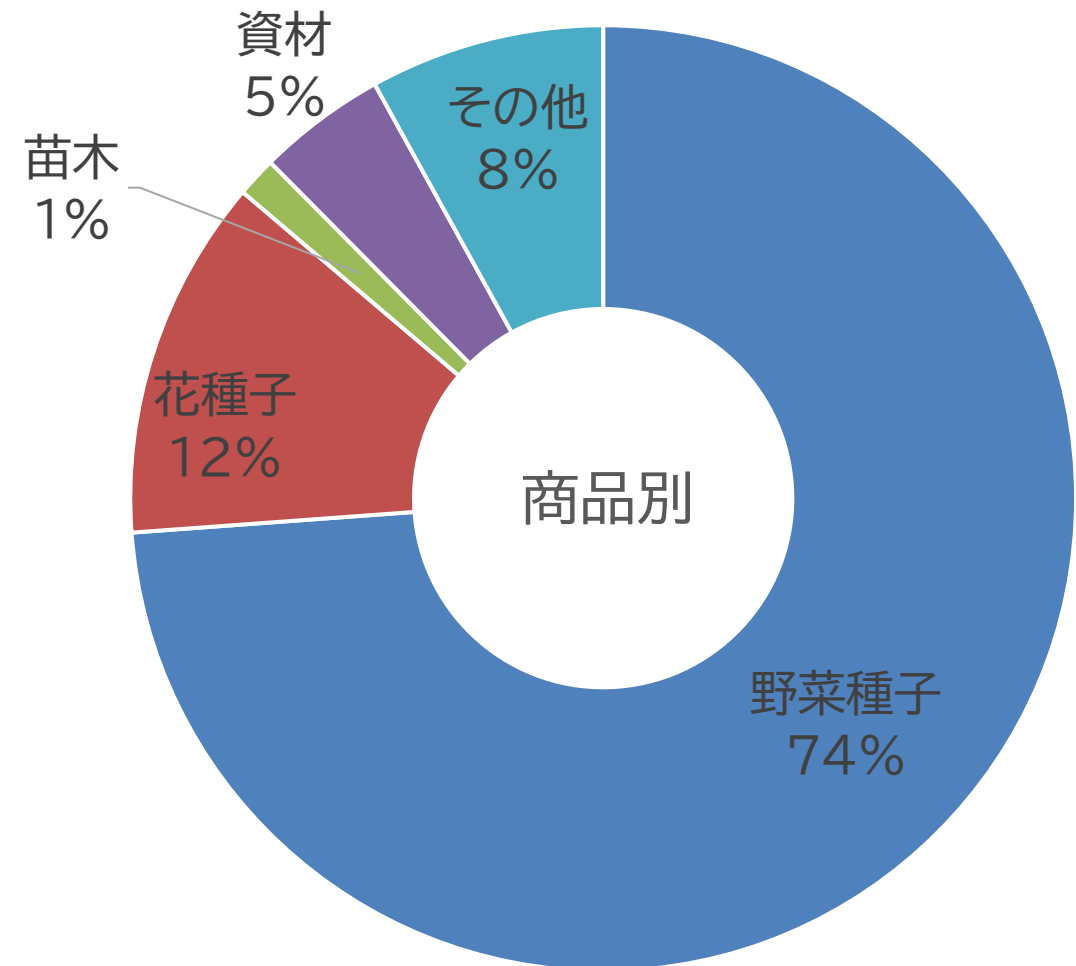
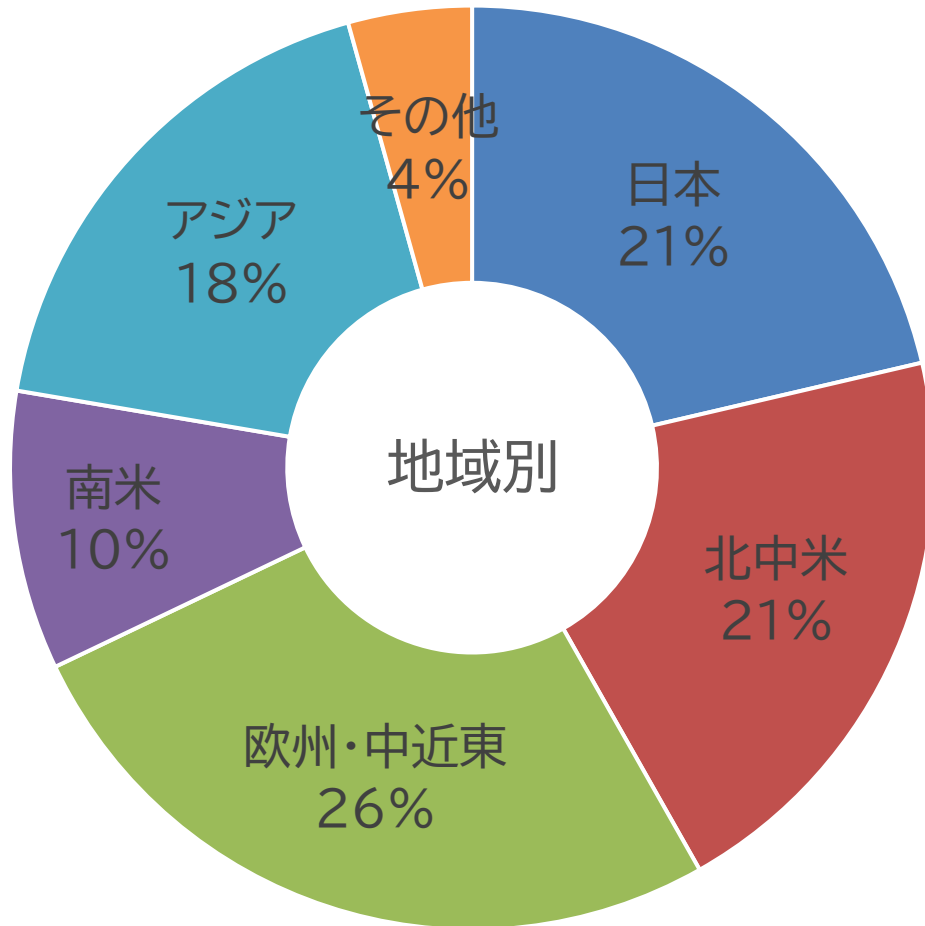
花は心の栄養、野菜は体の栄養

環境と社会、農園芸の持続的な発展を目指します

PASSI  N in Seed



5. 2026年5月期 中間期 資料集



2026年5月期 中間期 実績 外部売上高内訳②

品目別地域別売上高(内部取引消去後)の前期比増減

単位:百万円	野菜	花	苗木	資材	その他	合計
北中米	974	506	△11	—	171	1,640
欧州・中近東	2,159	190	—	—	25	2,375
南米	673	50	—	—	47	772
アジア	△560	△31	△1	0	789	193
その他地域	185	△7	—	—	27	205
海外小計	3,432	708	△13	—	1061	5,187
国内小計	164	△79	14	△58	209	234
合計	3,597	628	0	△57	1,271	5,421



2026年5月期 実績 海外販売先別外部売上高(四半期推移)



(単位未満切捨)	Q1	増減額	増減率 (%)	Q2	増減額	増減率 (%)	Q3	増減額	増減率 (%)	Q4	増減額	増減率 (%)	累計	増減額	増減率 (%)
北中米 (1,000USD)	25,437	4,459	21.3%	40,149	4,239	11.8%							65,586	8,698	15.3%
欧州・中近東 (1,000EUR)	36,308	5,131	16.5%	35,111	3,055	9.5%							71,419	8,186	12.9%
南米 (1,000BRL)	88,525	22,165	33.4%	78,127	△3,500	△4.3%							166,653	18,665	12.6%
アジア (100万JPY)	3,777	434	13.0%	4,819	△240	△4.8%							8,596	193	2.3%
うち韓国 (100万KRW)	4,571	△887	△16.3%	7,687	407	5.6%							12,259	△480	△3.8%
うちインド (100万INR)	362	20	5.9%	587	136	30.3%							949	156	19.8%
その他(100万JPY) (アフリカ・オセアニア)	813	△95	△10.5%	1,252	300	31.6%							2,066	205	11.0%





2025年5月期 実績 海外販売先別外部売上高(四半期推移)



(単位未満切捨)	Q1	増減額	増減率 (%)	Q2	増減額	増減率 (%)	Q3	増減額	増減率 (%)	Q4	増減額	増減率 (%)	累計	増減額	増減率 (%)
北中米 (1,000USD)	20,978	△922	△4.2%	35,909	△55	△0.2%	41,229	5,363	15.0%	54,653	4,240	8.4%	152,771	8,625	6.0%
欧州・中近東 (1,000EUR)	31,176	4,861	18.5%	32,056	4,360	15.7%	28,042	3,687	15.1%	40,488	2,430	6.4%	131,764	15,339	13.2%
南米 (1,000BRL)	66,359	21,734	48.7%	81,628	25,309	44.9%	79,324	31,003	64.2%	82,541	△3,346	△3.9%	309,854	74,700	31.8%
アジア (100万JPY)	3,342	△333	△9.1%	5,059	△578	△10.3%	3,107	597	23.8%	4,403	△336	△7.1%	15,913	△649	△3.9%
うち韓国 (100万KRW)	5,459	△1,064	△16.3%	7,280	333	4.8%	2,992	△1,354	△31.2%	11,727	879	8.1%	27,460	△1,206	△4.2%
うちインド (100万INR)	342	△37	△10.0%	450	7	1.7%	278	65	30.4%	220	△117	△34.8%	1,292	△83	△6.0%
その他(100万JPY) (アフリカ・オセアニア)	908	146	19.3%	951	192	25.4%	1,030	△13	△1.3%	933	△50	△5.2%	3,824	274	7.7%



本プレゼンテーション資料には、株式会社サカタのタネの業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、そのほかの経済・社会・政治情勢などのさまざまな要因により記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。不確実性および変動要素全般に関する詳細については、有価証券報告書、決算短信などをご参照ください。



PASSI  N in Seed